

事務事業評価シート

事業番号 No. 22		事務事業名 シルバー人材センター運営費補助金		所管部課 地域共生課							
基礎情報	事業開始時期【1】		平成25年度	実施形態【2】 ☐ 直営 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ その他 ()							
	根拠法令等【3】		公益社団法人西東京市シルバー人材センター運営費等補助金交付要綱								
	総合計画【4】		基本目標 3 笑顔で自分らしく暮らせるまち	基本施策 8 いつまでも健康で元気に暮らすために	施策 8-2 高齢者の社会活動や生きがいがづくりの充実						
	個別計画【5】		計画	施策等①	施策等②						
事務事業の概要	事務事業の目的と目指す成果【6】		公益社団法人西東京市シルバー人材センターの運営及び事業に要する経費の一部を市が補助することにより、人材センターの健全な運営を図ること。								
	事務事業の内容・実施方法等／補助の概要【7】		【主な補助の概要及び補助額(率)】 公益社団法人西東京市シルバー人材センターの運営及び事業に要する経費の一部を市が補助する。 ■支払方法:概算払 ■補助額・率: (1)職員人件費 10/10(但し、予算範囲内) (2)公益目的事業費 10/10(但し、予算範囲内) ■国・都補助の有無:あり(東京都シルバー人材センター事業補助金) ■上乗せ横出し補助の有無:なし ■補助対象:公益社団法人西東京市シルバー人材センター								
事業費データ	項 目		令和5年度(決算額)	令和6年度(決算額)	令和7年度(決算見込額)	令和8年度(予算額)	単位				
	事業費計【8】		45,302	45,100	42,881	45,176	千円				
	財源内訳										
	国庫支出金・都支出金		12,495	12,495	12,495	12,495					
	その他()										
	一般財源		32,807	32,605	30,386	32,681					
	人件費計【9】		762	744	744	744					
内訳											
正規職員		0.10 人 762 千円	0.10 人 744 千円	0.10 人 744 千円	0.10 人 744 千円						
会計年度任用職員		人 千円	人 千円	人 千円	人 千円						
総コスト		46,064	45,844	43,625	45,920						
活動実績【10】	項 目		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	①活動紹介の強化(入会説明会参加者数)		300	177	300	239	300	291	300	300	人
②											
成果指標【11】	項 目		令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	シルバー人材センターの会員登録数		1,200	1,105	1,200	1,155	1,200	1,188	1,200	1,220	人
	①【成果指標の説明】 国庫補助金や東京都補助金のランク分けにおいて、会員数が関係するので、会員登録数を成果指標とする。現ランクを維持するためには一定数の会員数の確保が必須であることから会員数を増やす取組として、月1回で実施している定期的な入会説明会に加え、商業施設や公民館等にて出張説明会を13回実施した。										
	就業延べ人数		-	144,780	-	143,090	-	142,108	-	-	人
②【成果指標の説明】 就業延べ人数と会員数は、国庫補助金や都補助金の補助額を決定するランク付に使用される数値であるため、その人数を成果指標とするが、目標値の設定はしていない。現在専門職の植木班、除草班の就業会員が不足、植木の就業支援講習を受講した会員が植木の仕事に就労するなど人材が不足している。											
事業環境等	事業実施においての課題点と改善に向けての取組【12】		会員の過半数を超える方が75歳以上と高齢化の影響が見られる。(65歳までの雇用継続の義務化等によるもの)会員の入会数が増加しているにもかかわらず、会員の就業希望と実際の就業募集内容がミスマッチも見受けられる。なお、改善としては、令和6年度以降より補助金の公益目的事業費(光熱水費)を45万円削減している。								
	他団体の実施状況【13】		令和7年度当初予算額は26市中8位である。市補助金は、主に人件費、その他管理運営費の一部に充当される。								
	代替・類似サービスの有無【14】		☐ 有 ☒ 無								

【検証項目】

検証項目 【15】			一次評価	二次評価	本部評価	
	必要性	事業の実施が国・都の法令等で定められている	非該当	非該当		
		市が主体となって実施しない場合、市内における当該サービスの提供が不十分になる恐れがある	該当	該当		
		現下の社会経済情勢に見合った事業である	該当	該当		
	有効性	成果指標の達成状況はどうか	3	2	0	/9
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の対象は適切か	3	3		
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の内容・実施方法は適切か	3	3		
	効率性・経済性	業務プロセスに改善の余地はないか	2	2	0	/9
		投入したコストが活動実績に見合っているか	2	2		
		国・都の補助金や受益者負担など、一般財源以外の財源確保がされているか	3	3		

【一次評価・二次評価】

一次評価 【16】	必要性	シルバー人材センターは、単なる労働力確保の場ではなく、高齢者の「生きがい対策」や「健康増進」を目的とし公共団体及び民間企業から受注を受ける事で社会参加の推進を図るとともに地域活動の貢献に寄与している。	二次評価 【17】	必要性	シルバー人材センターは、高齢者の就業及び活動の機会を確保し、高齢者のいきがいの充実・社会参加の推進を図ることにより、活力のある地域社会づくりに寄与する団体であり、健全な運営を支えていく必要がある。
	有効性	登録会員のキャリアを活かすために、民間企業や地域包括支援センター等との契約を増やし活動の機会を提供するために有効である。		有効性	会員登録数は成果指標の目標値に達してはいないが、会員確保のために実施した出張説明会等の取組により、年々増加しており、目標値に近づいている。就業延べ人数については、就業希望と就業募集のミスマッチによりやや減少傾向にあるものの、多くの会員がキャリアを活かした活動の機会を得ており、事業の内容は適切である。
	効率性・経済性	令和6年度に第4次計画の「中期計画(令和6年度～令和10年度の5ヶ年計画)」をスタートさせ、各目標達成のため工夫をしながら事業展開を進めている。人件費を削減する取組では、定年延長の職員を再任用にし、新規で若い職員を採用した。会員専用アプリや理事会でタブレットを導入して、印刷費や郵便料を削減するとともに、事務に従事する臨時職員1名を削減した。		効率性・経済性	国都補助の算定に係る就業延べ人数と会員登録数については、現在の最上位ランクを維持する取組がなされ、経費の節減についても既に取り組んでいる。今後は、高齢者雇用安定法等の動向を注視しつつ、引き続き、経費の削減、成果指標の実績値の向上及び財源確保の取組を進める必要がある。

【外部評価】

評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【18】	

【行革本部評価】

	コストの方向性	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
	総合評価	

改善の方向性と今後のスケジュール【19】	
----------------------	--